

2014 年 3 月 7 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 原嶋 洋平

フィリピン国 ミンダナオ島南部地域回廊補修事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2014 年 1 月 31 日(金) 14:00～17:11
- ・場所：JICA 本部 (会議室：2 階 212 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：作本委員、清水谷委員、原嶋委員、松行委員
- ・議題：「フィリピン国ミンダナオ島南部地域回廊補修事業(協力準備調査(有償))」
スコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：「フィリピン国ミンダナオ島南部地域回廊補修事業(協力準備調査(有償))」
スコーピング案事前配布資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010 年 4 月)

全体会合(第 45 回委員会)

- ・日時：2014 年 3 月 7 日(金) 14:31～17:20
- ・場所：JICA 本部(会議室：113 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. バイパスは一般道とも接続するため、バイパス沿道の開発が進む可能性が高い。沿道の開発にともなう環境影響についてどのように対処するのか、その位置づけを明らかにすること。
2. バイパスを横切る河川の数、橋梁の数、盛土・切土区間の長さ、水源の位置に関する情報を報告書案（DFR）に記述すること。
3. タグム・ダバオージェネラル・サントス回廊の現在の交通量、将来の交通需要予測、バイパス完成後の予測交通量を DFR に記述し、本事業の必要性を明確に説明すること。

代替案の検討

4. トンネルを建設しないオプション（迂回案）の比較検討結果を DFR に記述すること。
5. 代替案の検討において、「将来の住宅地」への影響についてはアクセス以外の影響についても考慮すること。
6. 代替ルート案評価（表 5.1-3, 5.1-4, 5.1-5）にて、「その他」に記載されている項目のうち、重要性の高い項目（交通量、工事建設期間、道路網の強化、住宅開発への影響等）については独立した項目として評価すること。
7. 代替案ごとに法面保護の費用を算出し、代替案比較に追記すること。
8. 代替案ごとに道路・橋梁・トンネルの維持管理費を算出し、代替案比較に追記すること。
9. 地震及び洪水に対する潜在的リスクについて代替案ごとに評価し、比較すること。
10. 代替ルート案評価(表 5.1-3, 5.1-4, 5.1-5)で推奨される代替案の選択理由について、表だけでなく文章による詳細な説明を加えること。
11. 本事業を実施しない場合の正の影響についても記述すること。
12. 自然環境影響の評価項目として、「切土法面の浸食」と「木々の伐採」だけでなく、代替案で検討した他の評価項目についても、DFR に記述すること。
13. 代替案において、フィリピンの国鳥イーグルへの影響の有無を具体的に記述すること。また、必要に応じてイーグルの生態調査を行うこと。

スコーピング・マトリックス

14. 建設廃棄物等により現況の水路に滞水すると Dengue 熱の媒介する蚊の発生源となり得るとの指摘があるので、これによる影響を考慮すること。
15. 本事業による洪水への影響及びトンネル建設による地下水の影響については「水象」で、水源への影響については「水利用」で、それぞれ項目を追加すること。
16. 景観への評価理由について再検討すること。
17. スコーピング・マトリックス（表 6-1）の「既存の社会インフラや社会サービス」については、将来的な影響が不明なので、D でなく、C とすること。
18. 将来の CO₂ 排出量については、工事前及び工事中だけでなく、供用後の予測をスコーピング・マトリックス（表 6-1）の評価に加えること。

環境配慮

19. ダバオ川の漁業実態についての調査結果を DFR に記述すること。

社会配慮

20. 交通渋滞に対する影響は言及されているが、物流に対する影響についても DFR に記述すること。

ステークホルダー協議

21. 本事業の被影響住民にとってステークホルダー協議に参加する機会が十分に提供されているかどうか、確認すること。

以 上